

シート培地「サニ太くん」を使った生徒実験「大腸菌の形質転換」

【生徒の感想より】

- ・今回の実験は予想をしっかりと立ててから臨めたので、内容をよく理解できました。
- ・サニ太くんを使った実験は2回目だったので、実験がスムーズにできました。班のみんなで協力したので、結果も良い結果が出ました。プラスミド導入を行っていて、アンピシリンを添加していないシートに、青いコロニーがあったときは、少しうれしかったです。
- ・大腸菌の形質転換がこんなに簡単にできていいのか！と感じました。手際もよく、結果もしっかりでてよかったです。予想としっかり合っていて、ひとりで少し感動しました。
- ・2年生の時よりもテキパキと実験し、ほぼ、予想していた結果を得ることができてよかったです。アンピシリン添加か、水か、という違いだけで、コロニー数に大きな違いが出ていて、「抗生物質」ってすごいものなのだなあ、と思いました。
- ・アンピシリン添加培地において、アンピシリン耐性遺伝子が導入されていないか、されているかで、コロニーがないものとあるものになったので、大腸菌の形質転換が行われたことがはっきりとわかりました。この実験で、大腸菌の性質を変えたのだ、と思うと、少し不思議な感じもしますが、こういう実験の積み重ねによって、米やジャガイモが遺伝子組換え食品としてスーパーに並ぶことになるのだと、実感しました。
- ・操作を素早く行わなければいけなかったのが、実験が成功するかどうか心配だったけど、上手いこといったので、良かったと思う。こんな簡単な方法で遺伝子を取り込ませることができるとも知らなかった。
- ・自然界で起きることは、いつも難しく、魔法みたいなことに捉えてしまってるけど、本当は、何も難しくなく、筋が通って起こることなんだ、と、当たり前なことだけど、改めて実感した。